

ホトケドジョウ *Lefua echigonia* Jordan et Richardson

【選定理由】

かつては水田や里山を代表する種であったが、湧水の枯渇、水田・湿地の減少、水路や小溝のコンクリート化など、生息環境の劣化が続き、個体数減少の傾向が継続している。

【形態】

体長 6cm。頭部は縦扁し尾部は側扁する。口は吻端の下側にあり、4 対の口ひげがある。1 対は、鼻孔から発達したものである。体色は淡褐色で、吻部に暗色斜線がない。また、背鰭と尾鰭に暗色斑点が散在する(細谷, 2013)。三河地方には、吻部の暗色斜線があるものも存在し、トウカイナガレホトケドジョウと類似するものがある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川水系から木曾川水系までの河川の他、丘陵地や山地の水田周辺水路、湿原など。

【国内の分布】

青森を除く東北地方から三重県、京都府、兵庫県。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

河川、池沼、農業用水路、水田、湿地などに生息する。また、これらにつながる細流に多い。夏期でも水温 27℃以下の場所で生息し、湧水や山間部から水がしみ出す場所や、その下流に多い。泥底や砂泥底を好み、日があたり水草などの植物が多い場所を好む。産卵期は 3～6 月の間で、水草などに産卵する。雑食性で、主に水生昆虫などの小型底生動物を食べる。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内広域に分布しているが、平野部や知多半島・渥美半島では急速に生息地の消失が見られる。また、山間部であっても、個体数が著しく少ない場所もある。これらは、宅地造成、道路工事、河川改修などに関連していることが多い。減少要因としては、生息水域の水温上昇、細流や小溝、河川のコンクリート化、河川や水路の直線化、水涸れなどがあげられる。

【保全上の留意点】

ホトケドジョウは、里山の小さな溝など、魚類の生息地と思われない場所に住むこともある。そのような場所では、緊急性・必要性の少ない改修を避けることを地域住民や行政、工事関係者が意識するだけで事足りる場合がある。湧水の水量と水温の安定や、産卵に必要な水草帯を消失させない配慮も必要である。

【引用文献】

細谷和海, 2013. ドジョウ科. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, pp.328-334. 東海大学出版会, 神奈川.

【関連文献】

浅香智也, 2007. 飼育環境下における愛知県産ホトケドジョウ属魚類 2 種の高水温耐性. 魚類自然史研究会会報ボテジャコ, 12: 29-32.

森 誠一・浅香智也, 2008. 愛知県東三河地方のホトケドジョウ類の地方名一生き物の多様性の保全一. 生き物文化誌ビオストーリー, 9: 116-122.

澤田幸雄, 2001. ホトケドジョウ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海(編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版, p.400. 山と溪谷社, 東京.

(浅香智也)